

# れんけいしゅう!

## 謹賀新年

地域医療支援病院  
 広島県指定がん診療連携拠点病院  
 災害拠点病院  
 広島DMAT指定病院  
 日本医療機能評価機構認定病院

国家公務員共済組合連合会  
 1904 呉共済病院

## TOPICS

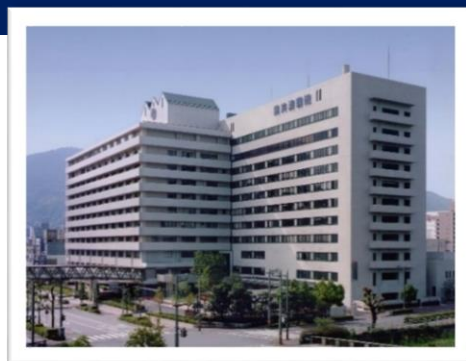
- ◆「新年のご挨拶」 病院長 寺坂 薫
- ◆「頸動脈狭窄症について 長期的な治療成績向上を目指して」 脳神経外科 栗山 充夫
- ◆「喘息の診断・治療法の進歩」 呼吸器内科 堀田 尚克
- ◆がん相談・患者支援センターNEWS

## 病院の理念

高度・良質の医療 最善の奉仕 研鑽と協調 地域医療の支援

## 基本方針

- 一 良質で、適切な医療の提供に努めます
- 二 患者様の権利を尊重し、満足・安心・信頼を追求します
- 三 新しい知識と技術を積極的に習得し、常に質の高い先進的医療を行います
- 四 地域の中核病院として、地域社会の要請に応える医療を提供します
- 五 職員が意欲を持って働ける病院をめざします
- 六 次代を担う有能な医療従事者の育成をめざします
- 七 専門的ながん医療の提供に努めます
- 八 国内での医療救護活動に積極的に参加します



## 地域医療連携室 がん相談・患者支援センターNEWS

	2020年10月	2020年11月	2020年度累計
紹介患者数《初再診全て》	997	931	7177
逆紹介患者数	911	857	6383
紹介率	73.0%	69.6%	69.7%

# 新年のご挨拶

病院長 寺坂 薫



新年あけましておめでとうございます。

開業医の先生方には、いつも多くの患者様を紹介していただき、ありがとうございます。

昨年は新型コロナウイルスの流行により、仕事や生活に大きな変化があり、当院も形態や働き方を変えることにより with コロナのもと new normal な状態を目指してきました。

まだまだ完全なる終息が見えない中、日本のみならず世界を取り巻く医療、経済への大きな打撃は避けられず、困難な状況にあるのは、全世界共通であります。

一方で、ワクチンの開発が進み、接種開始となった国もあり、僅かながら明るい兆しも見られます。ちなみに、昨年2～12月の11か月間に当院では新型コロナウイルス肺炎に対しPCR検査、LAMP法、抗原検査など合計で約1000件を行い、地域に貢献してまいりました。

また、地域の皆様に安心してご来院頂けるよう、当院では感染対策室(Infection Control Team: ICT)を中心に職員一丸となって新型コロナウイルス感染症対策に取り組みました。

1. 入院患者様に感染させない
2. 院内での感染拡大を防止する
3. 職員の健康状態を管理する

これらを基本方針とし、来院された方の検温、新型コロナウイルスの感染が疑われる患者様につきましては、他の患者様との接触を回避するため、専用の診察室に移動してもらうように新たな動線も確保しました。

また、安心して入院加療をしていただくため、ご家族や訪問者等の面会を原則禁止とし、患者様に必要な荷物は、手荷物受け渡しセンターでお預かりしています。患者様、家族の方にご迷惑をかけ申し訳なく思っています。

ただし、少しでも患者様の不安を取り除ければと思い、面会はiPadを用いてリモートで行えるように致しました。

その他、オンラインでの講演会、退院調整会議、開業医の先生との面談なども他に先駆けて推進しています。



今年は丑年です。中国では、牛は神のオーラを漂わせた動物で森羅万象の象徴でした。牛は人類が最も早期に飼い慣らした動物とされ、五穀豊穡の神と考えられていたそうです。「丑年」の2021年は、子年の繁栄を土台に先を急がず一步一步着実に物事を進めることを大切にしようという気配も感じられます。ジョー・バイデン氏はアメリカ大統領選挙の勝利宣言の中で「結束(Unity)」「多様性(Diversity)」「可能性(Possibility)」「品格(Decency)」の4つの理念を中心に、分断ではなく団結を推進していくとスピーチされました。私達もこの理念のもと、多くの開業医の先生方と結束(Unity)、あらゆる可能性(Diversity, Possibility)を模索しながら、品位(Decency)を持って協力していきたいと思っています。

この新しい年が皆様と患者様に、より嘉き年になるよう心より祈念致しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしく申し上げます。

# 頸動脈狭窄症について 長期的な治療成績向上を目指して

脳神経外科 栗山 充夫

脳梗塞の原因として、動脈硬化による脳動脈の閉塞、あるいは心房細動による心原性脳塞栓症が有名ですが、頸部の頸動脈狭窄症による脳梗塞も少なくありません。

頸動脈狭窄により灌流域末梢の血行が障害され脳梗塞を生じたり、頸動脈狭窄部に血栓を形成し、この血栓が頭蓋内動脈に飛散して眼の虚血や脳梗塞を来します。

視力障害、言語障害、上下肢運動障害などにより、眼や脳の虚血が疑われる患者様に対する精査や、脳血管障害のリスクファクターのある患者様に対する脳血管疾患スクリーニングとして、頭部 MRI、頭部で脳や脳動脈が評価されることが多いようですが、出来れば頸部 MRA を追加して頸動脈も評価する MRA ことをお勧めします。

頸動脈狭窄症には、内科的治療のみ行うよりも、後述する手術を追加した方が、より良い治療成績が期待出来るケースもあります。そこで、頸動脈 MRA で頸動脈狭窄症が疑われた場合、当科を御紹介いただければ、更に検討させていただきます。

症候性頸動脈狭窄症では抗血小板剤を投与しますが、ある程度狭窄が強ければ、カテーテルを用いて頸動脈狭窄部にステントを留置し狭くなった動脈を広げる血管内手術「頸動脈ステント留置術

(CAS)」や頸部を切り頸動脈を確保後、頸動脈を切開し狭窄病変を取り除く手術「頸動脈血栓内膜剥離術 (CEA)」が必要となります。また無症候性頸動脈狭窄症でも状況により抗血小板剤投与、CAS や CEA を考えることもあります。

当科では、狭窄部病変の性状を頸動脈エコーや MRI 検査で評価、狭窄の状態や関連する動脈の状態を 3D-CTA (造影 CT) や脳血管造影 (DSA) で評価、脳血流状態を SPECT で評価、更に心機能など全身状態の評価を行っています。これらの結果をもとに、患者様に応じて、内科的治療、CAS、CEA いずれかの方針を立て、治療を行っています。

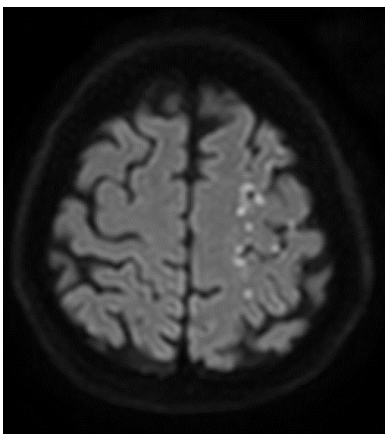
いずれの治療方針でも、血圧、血糖や脂質管理など厳密な全身管理や禁煙などの生活習慣の是正で最良の内科治療 (Best medical treatment) の継続が重要とされています。

当科での CAS、CEA の手術後や内科的治療方針となった患者様に対して、その後の内科治療は地域の先生方に御願ひし、当科では頭部 MRI や頸動脈エコーなどでフォローさせていただき、地域の先生方と連携のもと長期的な治療成績向上に努めていますので、今後とも宜しく御願ひ申し上げます。

## 右手巧緻運動障害にて検査施行

頭部 MRI (拡散強調画像)

頸部 MRA



左大脳半球に多発性脳梗塞

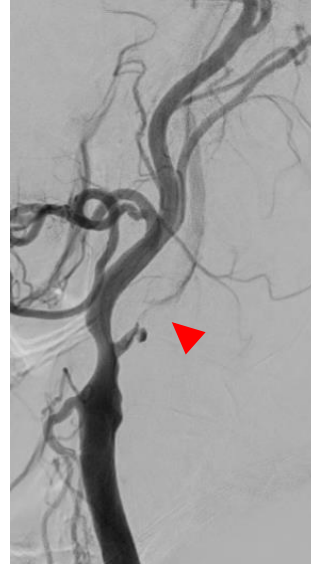


左頸動脈高度狭窄

## 頸動脈高度狭窄に対して CAS 施行

頸動脈高度狭窄

CAS 後、頸動脈は十分に拡張



# 喘息の診断・治療法の進歩

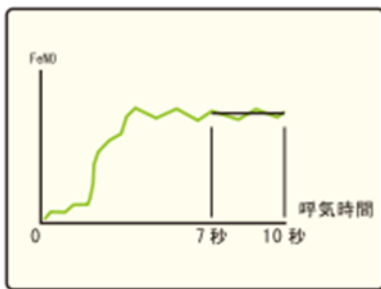
呼吸器内科 堀田 尚克

ステロイド吸入薬が導入されて以降、入院治療の必要な喘息患者は激減しましたが、今でも5~10%は高容量の吸入ステロイド薬や各種治療薬を併用してもコントロール不良で、急性増悪（発作）を繰り返しています。難治性喘息と言われます。

このような難治性喘息に対して、抗IgE抗体薬、抗IL-5/抗IL-5受容体 $\alpha$ 受容体などの抗体治療薬が使えるようになってきました。

日々のQOLが改善し、副作用の多いステロイド内服薬から離脱できることもあるため、患者さんには福音と言えます。ただ高額な薬剤のため、高額医療費制度を利用して負担を最小限に抑える支援も重要です。

## FeNO測定



- 呼吸ハンドルに内蔵されたNOスクラバー(大気中のNOを除去するフィルター)を介してNOフリーのガスを呼吸します。
- ATS/ERSの推奨に従って一定の呼気流量(50ml/sec $\pm$ 10%)で10秒間呼出します。
- 最後の3秒間の呼気をサンプリングして分析しますので、安定したFeNOを測定できます。

喘息は特徴的な病歴、心疾患や肺炎など他疾患の除外などにより総合的に診断することが多い疾患ですが、数年前から呼気中の一酸化窒素濃度（FeNO）値が診断の補助に利用できるようになりました。治療の効果により診断していた症例が減っています。

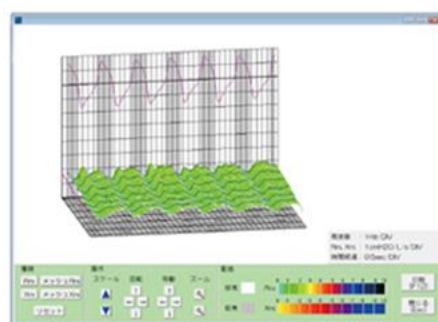
FeNO濃度 (ppb)	感度	特異度
22ppb	91%	84%
37ppb	52%	99%

また呼吸抵抗の測定が喘息やCOPDの診断の補助に使えるようになりました。

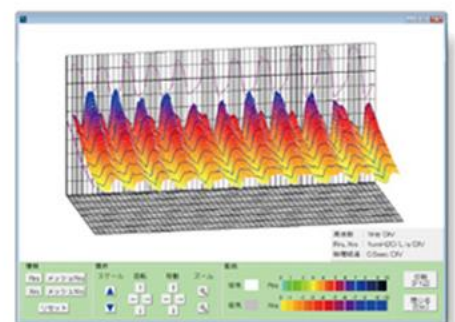
呼吸機能検査と違い通常の呼吸状態で検査できるため、患者さんの負担が少ないのが利点のひとつです。

COPDの治療に、3種混合吸入薬（ステロイド、長時間作用型 $\beta$ 刺激剤、長時間作用型ムスカリン受容体拮抗薬）が処方できるようになり、喘息症状を伴う方には特に効果的です。

## 呼吸抵抗の測定



●健康者



●周波数依存性が認められるCOPDの症例